

「本部」反動分子と権力の完全一体となった デッチあげ「6.12事件」の現場検証を弾劾する!

日刊 動労千葉

81.7.9

No.787

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆電話(三三三)七二〇七

なりふりかまわぬ動労千葉破壊攻撃を 総力あげて粉碎しよう!

われわれは、千葉県警・船橋署が、昨日(八日午前四時)私服・制服警官約九〇名をもって津田沼電車構内に押し入り、動労「本部」反動分子がデッチあげ・告訴した「六・一二事件」の現場検証強行に対し、満腔の怒りを込めて弾劾する。しかも、この「現場検証」においてデッチあげ告訴人である嶋田誠・斎藤(吉)・佐藤(次)・革マル弁護士渡辺千古らが立ち合い、文字通り権力一体となって「自作自演」のデッチあげ事件の再現をやっていたのである。われわれは、自らの労働者の感性の最後の「カケラ」も投げ棄て、動労千葉破壊のためにはどんなことでもやり出した動労「本部」反動分子を絶対に許すことが出来ない。

権力を職場に手引し、「自作自演」を行なった
嶋田・斎藤(吉)・佐藤(次)

千葉県警・船橋署は、津田沼電車区構内における現場検証を私服・制服警官約九〇名を導入して、八日早朝四時ごろから八時過ぎまでの四時間にわたって強行した。

動労千葉は、こうした職場を土足で踏みこむ権力の不当介入に対し、水野財政部長を急拠派遣し、津田沼支部からは、片岡支部長以下約一〇名の役員・活動家が結集して断固たる抗議行動を展開した。

一方デッチあげ告訴の張本人である転び屋・革マル分子嶋田誠・斎藤吉司・佐藤次男をはじめ「本部」三信ビル竹内・石津(「本部」中執)・革マル弁護士渡辺千古らは、権力とのあらかじめの打ち合せにもとづき、権力と同時に津田沼電車区にマイクロバスで到着し、わが動労千葉の断固たる抗議と監視の中で、「デッチあげ傷害事件」の再現のために身ぶり、手ぶりよろしく最大限の演技で権力に訴え、タレコミ、権力と一体となった全くオゾマシイ姿をさらけ出していたのである。しかも、この長時間にわたる転び屋・革マル分子嶋田らの「自作自演の現場検証」の最中、津田沼電車区への唯一の通路である構内踏み切りを一切断し、ロープをはりめぐらし、つきつきと出動してくる乗務員などを足止めし、「立入禁止」「身分証明書を見せろ」とか、さらには動労千葉の抗議に対しては、「公務執行妨害で逮捕するな」とどう喝、いやがらせを行なったのである。こうして「現場検証」は、ロープをはりめぐらし、一切を断し、わが動労千葉の抗議と監視の中で権力・「本部」反動分子一体となった「自



嶋田・斎藤らの身ぶり、手ぶりの演技にもとづき、デッチあげ事件を再現する権力。ついで、デッチあげ事件を再現する権力。

作自演「が行なわれたのである。

権力に動労千葉を売り渡し、
当局に職場管理体制の強化を
要求する嶋田・斎藤(吉)らに許すな

現在、津田沼電車区では、当局職制によって全職員に対する勤務の厳正・監視体制の強化が行なわれている。

これは、他でもなく、動労「本部」及び三信ビルの「強力な要求」にもとづいて行なわれているのである。国鉄当局にとって、今日の「行財政改革」「国鉄三五万人体制」を遂行する上で、国鉄労働運動をたたくつぶし、職場管理体制を強化しない限り達成不可能なものである以上、この動労組合「本部」の「要求」は、願ってもない「要求」なのである。

今や、動労「本部」反動分子は、自分の力では出来ないゆえに、権力と国鉄当局の手をかりても動労千葉破壊をなすとげるために、なりふりかまわぬデッチあげ告訴「タレコミ」・職場管理体制の強化を願ひ出ているのである。

こうして、嶋田誠・斎藤吉司らをはじめとする動労「本部」反動分子に対する津田沼電車区全体のうらみ・つらみは、極限に達している。われわれは、八日早朝の権力・「本部」反動分子一体となった現場検証と称する職場のじゅうりんに対し、満腔の怒りを込めて弾劾し、総力をあげて、デッチあげ告訴・動労千葉破壊攻撃を粉碎しなければならない。

強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ。